

西口 智也 (Tomoya NISHIGUCHI)

学位：修士（文学）

略歴：早稲田大学大学院文学研究科東洋哲学修士課程修了

早稲田大学大学院文学研究科東洋哲学博士後期課程満期退学

専門分野：中国古典文学、漢文学、中国語教育論

研究課題：1. 中国古典解釈学

2. 漢文教育

3. 中国語教授法

【著書】

- ・『中日英対照 一挙三得 初級中国語』（共著、中国語教学研究会、2019 年 3 月）
- ・『テーマ別 漢字&語彙の徹底攻略 2500 +（プラス）』（監修、東京法令出版、2019 年 3 月）
- ・『ザ・漢字』（共著、学習研究社、2002 年 7 月）

【論文】

- ・「ICT を利活用した中国語自主学習支援の実践 — CC ラウンジでのアウトプット練習指導を実例として」（『愛知文教大学論叢』第 25 号、2023 年 2 月）
- ・「中国語（普通話）学習における台湾華語（國語）の活用について — 繁体字と注音符号をめぐって —」（『愛知文教大学教育研究』第 12 号、2022 年 2 月）
- ・「ICT を活用した漢文入門期における漢作文学習の可能性」（『愛知文教大学教育研究』第 11 号、2021 年 3 月）
- ・「愛知文教大学におけるアンケート実施方式改善への取り組み — ルーブリック自己評価アンケート（外国語分野）を事例として —」（『愛知文教大学論叢』第 22 巻、2019 年 11 月）
- ・「中国語学習ストラテジーとしての課外クラブ活動の可能性 — 中華文化倶楽部におけるアクティブ・ラーニング —」（『愛知文教大学教育研究』第 9 号、2019 年 3 月）
- ・「愛知文教大学におけるルーブリックへの取り組み — 自己評価アンケート（外国語分野）の試行 —」（『愛知文教大学論叢』第 21 巻、2018 年 11 月）
- ・「高等学校国語科の漢文学習における押韻と平仄を活用した漢詩指導の可能性」（『愛知文教大学教育研究』第 8 号、2018 年 3 月）
- ・「愛知文教大学の中国語教育 — CC ラウンジでの学習支援を中心に —」（『愛知文教大学論叢』第 20 巻、2017 年 11 月）
- ・「学校教育における漢文訓読「返り点の運用ルール」試案をめぐって」（『愛知文教大学教育研究』第 7 号、2017 年 3 月）
- ・「大学漢文教育における IT 技術活用の現状と展望」（大修館書店、『漢文教室』197 号、2011 年 6 月）

【その他】

- ・出張授業「はじめての中国語～漢詩を音読してみよう～」(於：愛知県おおぞら高等学院岡崎キャンパス、2023 年 1 月)
- ・出張授業「はじめての中国語～正しいイントネーションであいさつしてみよう～」(於：愛知県立瀬戸北総合高等学校、2019 年 3 月)
- ・出張授業「イントネーションから学ぶはじめての中国語」(於：愛知みずほ大学瑞穂高等学校、2019 年 3 月)
- ・出張授業「台湾中国語で自己紹介」(於：愛知県立中川商業高等学校、2018 年 9 月)
- ・出張授業「注音符号で学び直す中国語発音」(於：愛知県立南陽高等学校、2018 年 9 月)
- ・出張授業「台湾の食文化～中国四代料理と台湾屋台料理～」(於：愛知県立春日井商業高等学校、2018 年 7 月)
- ・出張授業「台湾の中国語～中国大陸の中国語との違い～」(於：愛知県立春日井商業高等学校、2018 年 7 月)
- ・出張授業「中国語入門～漢詩を中国語で音読してみよう～」(於：愛知県立岩倉総合高等学校、2018 年 5 月)
- ・出張授業「中国語による漢詩の音読」(於：愛知県立南陽高等学校、2018 年 2 月)
- ・出張授業「中華料理を注文してみよう」(於：愛知県立稲沢高等学校、2018 年 1 月)
- ・出版授業「中国語で自己紹介をしてみよう」(於：愛知県立稲沢高等学校、2018 年 1 月)
- ・出張授業「中国語会話～台湾編～」(於：愛知県立鶴城丘高等学校、2017 年 9 月)
- ・出張授業「台湾の中国語」(於：愛知県立南陽高等学校、2017 年 9 月)
- ・出張授業「観光中国語～台湾編～」(於：愛知県立中川商業高等学校、2017 年 9 月)
- ・講演「漢詩朗読の魅力 ― 日本語としての訓読と中国語としての音読 ―」(愛知文教大学公開講座、於：愛知文教大学、2017 年 4 月)
- ・出張授業「中華料理を注文してみよう」(於：愛知県立稲沢高等学校、2017 年 1 月)
- ・出張授業「中国語で自己紹介をしてみよう」(於：愛知県立稲沢高等学校、2017 年 1 月)
- ・出張授業「中国語で自己紹介」(於：愛知県立中川商業高等学校、2017 年 9 月)
- ・大学入試センター試験作問 (2015 年度および 2016 年度)
- ・出張授業「中国のお正月」(於：愛知県立岡崎商業高等学校、2015 年 2 月)
- ・出張授業「中国語の基礎 その 3」(於：愛知県立中川商業高等学校、2014 年 10 月)
- ・コラム「老子道德経」(『愛知文教大学 教職センター通信』第 20 号、2013 年 9 月)
- ・出張授業「お茶を通じて学ぶ中国文化」(於：ノースリバー日本語スクール、2013 年 8 月)
- ・講演「太陽と月の出会い ― 李白と杜甫の旅 ―」(愛知文教大学公開講座、於：愛知文教大学、2013 年 7 月)
- ・出張授業「中国語の音読で学ぶ漢詩」(於：静岡県立気賀高等学校、2012 年 11 月)

- ・講演「風蕭蕭として易水寒し ― 中国武侠の世界 ―」（愛知文教大学公開講座、於：愛知文教大学、2012 年 8 月）
- ・書評「村山吉廣著『藩校 ― 人を育てる伝統と風土』」（『新しい漢字漢文教育』第 54 号、2012 年 3 月）
- ・講演「お茶を通して中国文化を学ぶ」（於：小牧市立光が丘中学校、2012 年 2 月）
- ・書評「二畳庵主人／加地伸行著『漢文法基礎 本当にわかる漢文入門』」（『新しい漢字漢文教育』第 53 号、2011 年 10 月）
- ・講演「うたう曹操 ― 「短歌行」引用『詩経』「子衿」詩の解釈をめぐって」（愛知文教大学公開講座、於：愛知文教大学、2011 年 7 月）
- ・日本聞一多学会理事
- ・全国漢文教育学会評議員

令和 6（2024）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	西口智也	職位／役職	教授
-----	------	-------	----

1. 教育の理念

本学の建学の精神である「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」の実現を信念とし、文学および語学系の大学教員として、単に知識としての文学知識の教授や、技術としての語学能力の訓練に終始するのではなく、特に専門である中国の歴史と文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく総合的な教育、および実践中国語の修得と運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成を心掛け、今後、コロナ禍の継続や生成 AI の発達などによる全世界的な変革の波にあっても、自立的に生き抜く強い心とそれを助ける社会力を備えた人材を育成していく姿勢を貫きたい。

2. 教育活動の内容

[2023 年度担当授業]

(学部) 漢文学 A、漢文学 B、中国語講読 A、中国語講読 B、検定試験対策中国語講座 A (HSK3 級)、検定試験対策中国語講座 B (HSK3 級)、検定試験対策中国語講座 A (HSK4 級)、検定試験対策中国語講座 B (HSK4 級)、初級中国語Ⅱ<再履修者専用クラス>、入門中国語 (リメディアルクラス)、初級中国語 (リメディアルクラス)、アカデミアゼミ A、アカデミアゼミ B、アカデミアゼミ C、アカデミアゼミ D

(大学院) 比較文学文化論、中国文化研究、中国歴史文化論

[2024 年度担当授業]

(学部) 漢文学 A、漢文学 B、検定試験対策中国語講座 A (HSK2 級)、検定試験対策中国語講座 B (HSK2 級)、検定試験対策中国語講座 A (HSK3 級)、検定試験対策中国語講座 B (HSK3 級)、検定試験対策中国語講座 A (HSK4 級)、検定試験対策中国語講座 B (HSK4 級)、入門中国語 (リメディアルクラス)、初級中国語 (リメディアルクラス)、アカデミアゼミ A、アカデミアゼミ B、アカデミアゼミ C、アカデミアゼミ D

(大学院) 比較文学文化論、中国文化研究、中国歴史文化論

(学部) 漢文学 A、漢文学 B、中国語講読 A1、中国語講読 A2、中国語講読 B1、中国語講読 B2、検定試験対策中国語講座 A (HSK2 級)、検定試験対策中国語講座 B (HSK2 級)、教養中国語 A、入門中国語Ⅰ<再履修者専用クラス>、入門中国語Ⅱ<再履修者専用クラス>、初級中国語Ⅰ<再履修者専用クラス>、初級中国語Ⅱ<再履修者専用クラス>、入門中国語 (リメディアルクラス)、初級中国語 (リメディアルクラス)、アカデミアゼミ A、アカデミアゼミ B、アカデミアゼミ C、アカデミアゼミ D

(大学院) 比較文学文化論、中国文化研究、中国歴史文化論

[その他]

- ・ HSK (中国語検定試験) 対策補習 (夏季休業期間、および春季休業期間に実施。)

- ・部活動顧問（中華文化倶楽部、および野外活動研究会。）

3. 教育の方法

教育の理念を実現するため、特に専門である「中国の歴史と文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく総合的な教育、および実践中国語の修得と運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成」を第一の方針とする。

具体的に、前者については、担当する漢文（中国古典文学）系科目において、漢文訓読という日本で独自に発展した外国語学習法を徹底して学んでもらうことで、古典中国語という新しい視点から言語としての日本語の理解を深めてもらう。さらに、漢文訓読を活用し、諸子百家や史伝など中国古典文学を原文で講読していく中で、そこに描かれている「仁」「義」「礼」「知」「信」といった徳目が、古代から現代にいたる日本人たちの思想や生き方に深く根付いていることを知り、自身の心の成長に生かしてもらう。

後者については、担当する語学（現代中国語）系科目において、語学スキルとして語彙や文法、発音の訓練に終始するのではなく、日中同形異義語など、同じ漢字文化圏だからこそ可能な「似て非なる」異文化の体験をしてもらう。また併せて、授業の中で、実際に中国語を母語として生活している人々の暮らしぶりを広く紹介して中国語圏の文化と社会への関心を高めてもらい、授業外では、語学ラウンジ学習や部活動（中華文化倶楽部）を設け、留学生たちとの交流を促し、中国語コミュニケーション力を身に付けてもらう。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

漢文（中国古典文学）系科目については、講読する題材によって、履修者たちが示す興味の大きさが異なり、それが授業への取り組み姿勢や、授業評価アンケートの回答結果にも反映されていた。また、教職志望者（国語科）も含め、漢文訓読の基礎をしっかりと習得できなかった者もみられたので、そうした学生たちへの細やかなフォローを心掛けたい。

語学（現代中国語）系科目については、2年次必修科目と再履修者クラス科目、およびリメディアルクラス科目が中心だった影響もあったか、すでに中国語に対する学習意欲を失いかけている履修者が多く見受けられた。特に、文法中心の検定対策授業にあっては、そうした学生たちを十分に引き上げることができなかったため、今後は小テスト等、成果が目に見えるかたちでの指導を多くしていきたい。

また、専門外ではあるが、総合的な第二言語教育能力の向上を目指し、日本語教授法の学習を継続している。（日本語教育能力検定試験 合格：2021年）

5. 今後の目標

教育の理念である「中国の歴史と文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく総合的な教育、および実践中国語の修得と運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成」を実現するため、授業を通じては、主な担当科目である漢文（中国古典文学）系科目と語学（現代中国語）系科目において、それぞれ、ICTやAIを利活用しつつ、中国文化と日本語の理解を深めてもらい、真の中国語コミュニケーション力を習得してもらう。さらには、授業以外の学びの場を積極的に確保し、母語話者による少人数制の中国語レッスン（語学ラウンジ）と、部活動（中華文化倶楽部）を通じての母語話者留学生たちとの交流の機会を、より充実したものにしていきたい。

